

第1章 阿久根市の現状と課題

1 阿久根市の現状

(1) 阿久根市の概況

阿久根市は、鹿児島県の北西部に位置し、東は出水市、南は薩摩川内市と接し、北は長島町と黒之瀬戸大橋で結ばれています。市域は東西約 11.1km、南北約 22.4km と縦長の形状をしており、面積は約 134.28 km²です。市の南東部には、標高 400～600m 程度の紫尾山系の山地が、中部には丘陵地が広がっており、平地は多くありません。昭和 30 年に三笠町と合併し、現在の形態となりました。

気候は温暖湿潤で、農業や水産業が盛んです。特産品の「阿久根ボンタン」は、阿久根のシンボルとして全国有数の生産量を誇ります。

観光資源としては、東シナ海に広がる約 40km の海岸や沖合いに浮かぶ阿久根大島が、海水浴や釣りに人気が高く、多くの観光客が訪れています。



■市の位置

(2) 人口・世帯

ア 人口

(ア) 総人口の推移

平成 7 (1995) 年から平成 27 (2015) 年における人口の推移を見ると、平成 27 (2015) 年の人口は 21,198 人で、平成 7 (1995) 年と比較すると、マイナス 6,308 人と 2 割以上減少しています。

また、国立社会保障人口問題研究所の将来推計によると、人口減少は今後も続き、令和 22 (2040) 年には人口が 12,110 人まで減少すると予測されています。

高齢者人口をみると、高齢化が進行することが予測されており、令和 12 (2030) 年以降は高齢化率が 50% を超える見込みです。高齢者人口自体も、平成 27 (2015) 年をピークに減少に転じています。



■ 年齢 3 区分人口の推移 (1995 年～2015 年)

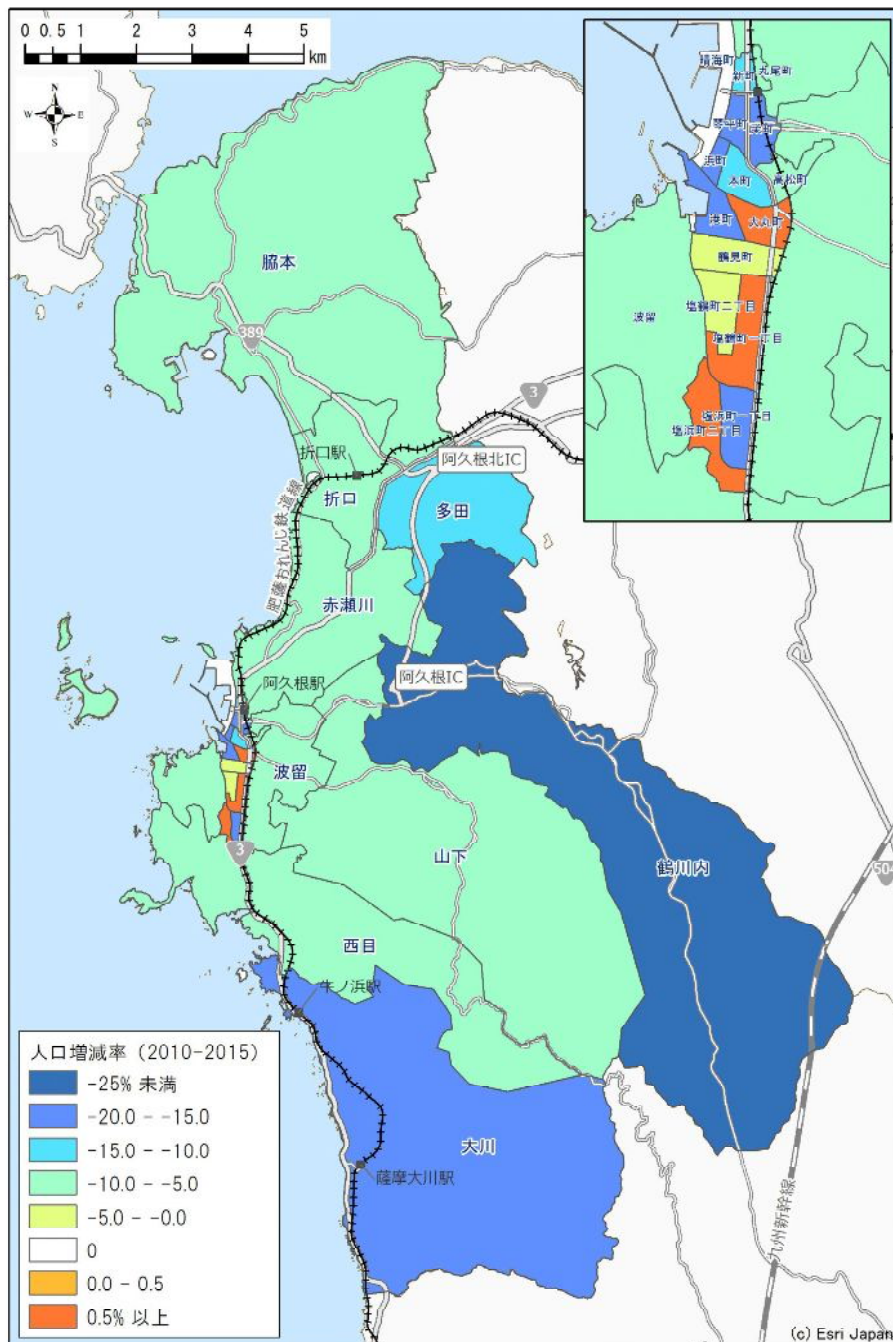
資料：国勢調査，国立社会保障人口問題研究所

(イ) 地区別人口の状況

平成 22 (2010) 年から平成 27 (2015) 年における国勢調査小地域別 (町丁・字等別集計区) 人口をみると、市内の大部分の地域で人口が減少しています。

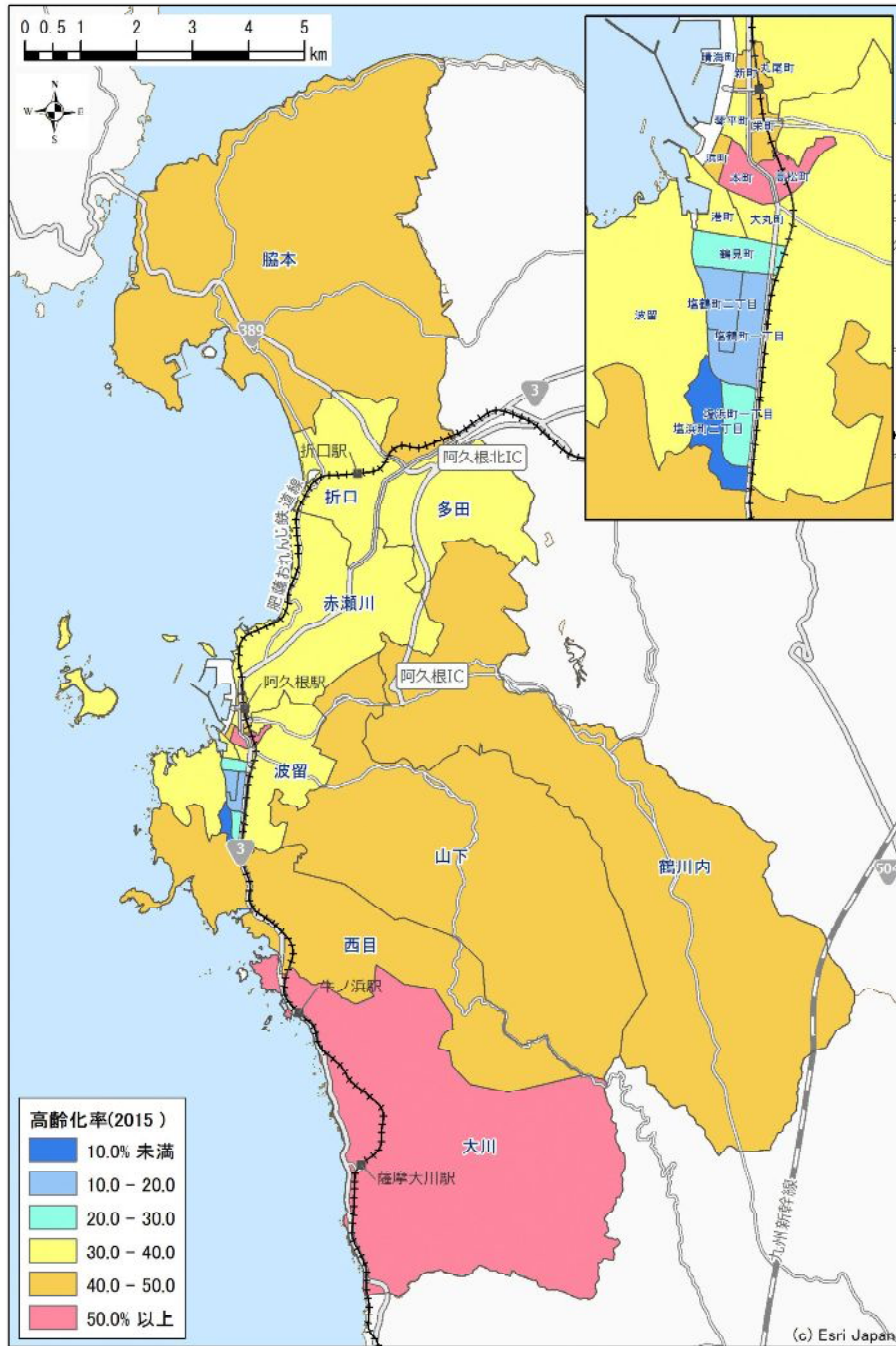
二級河川高松川河口南部の一部地域では人口増加が見られ、高齢化率も比較的低くなっています。

一方、大川地区や鶴川内地区では、人口減少や高齢化が著しく進んでいます。



■ 小地域別人口増減率図 (2010年～2015年)

資料：国勢調査



■小地域別高齢化率図（2015年）

資料：国勢調査

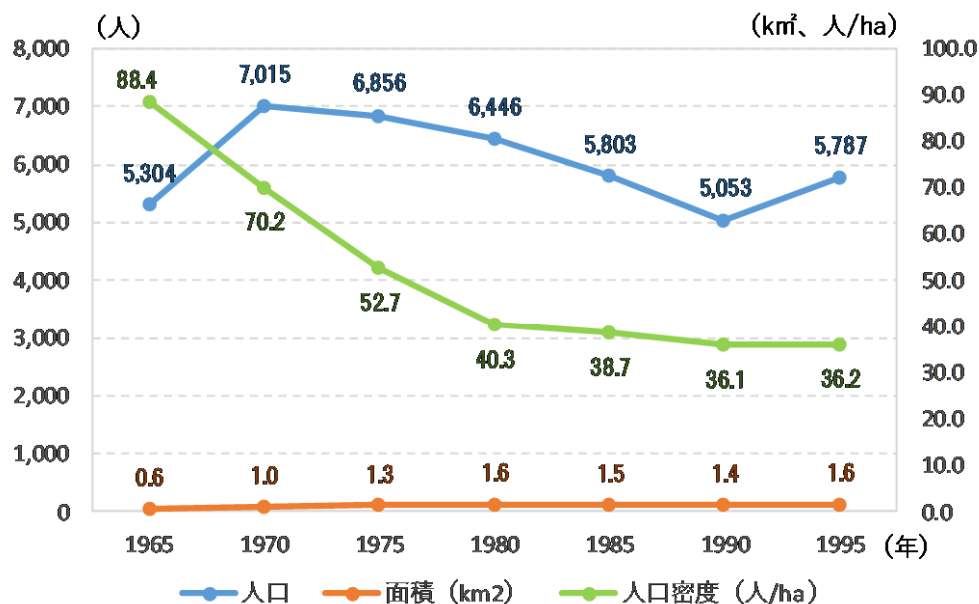
(ウ) 人口集中地区

人口集中地区（DID 地区）は、二級河川高松川河口付近の市中心部から国道 3 号沿いに拡大していますが、用途地域北部と比較して、南部への DID 地区の拡大はあまり見られません。

DID 地区面積は、昭和 40（1965）年から昭和 50（1975）年にかけて 2 倍程度拡大しましたが、昭和 55（1980）年以後は横ばいの傾向にあります。

人口は、昭和 45（1970）年をピークに減少を続けていましたが、平成 2（1990）年から微増しています。

一方、人口密度は、昭和 40（1965）年から昭和 55（1980）年にかけて急激に減少したのち微減を続けており、低密度化が進行しています。

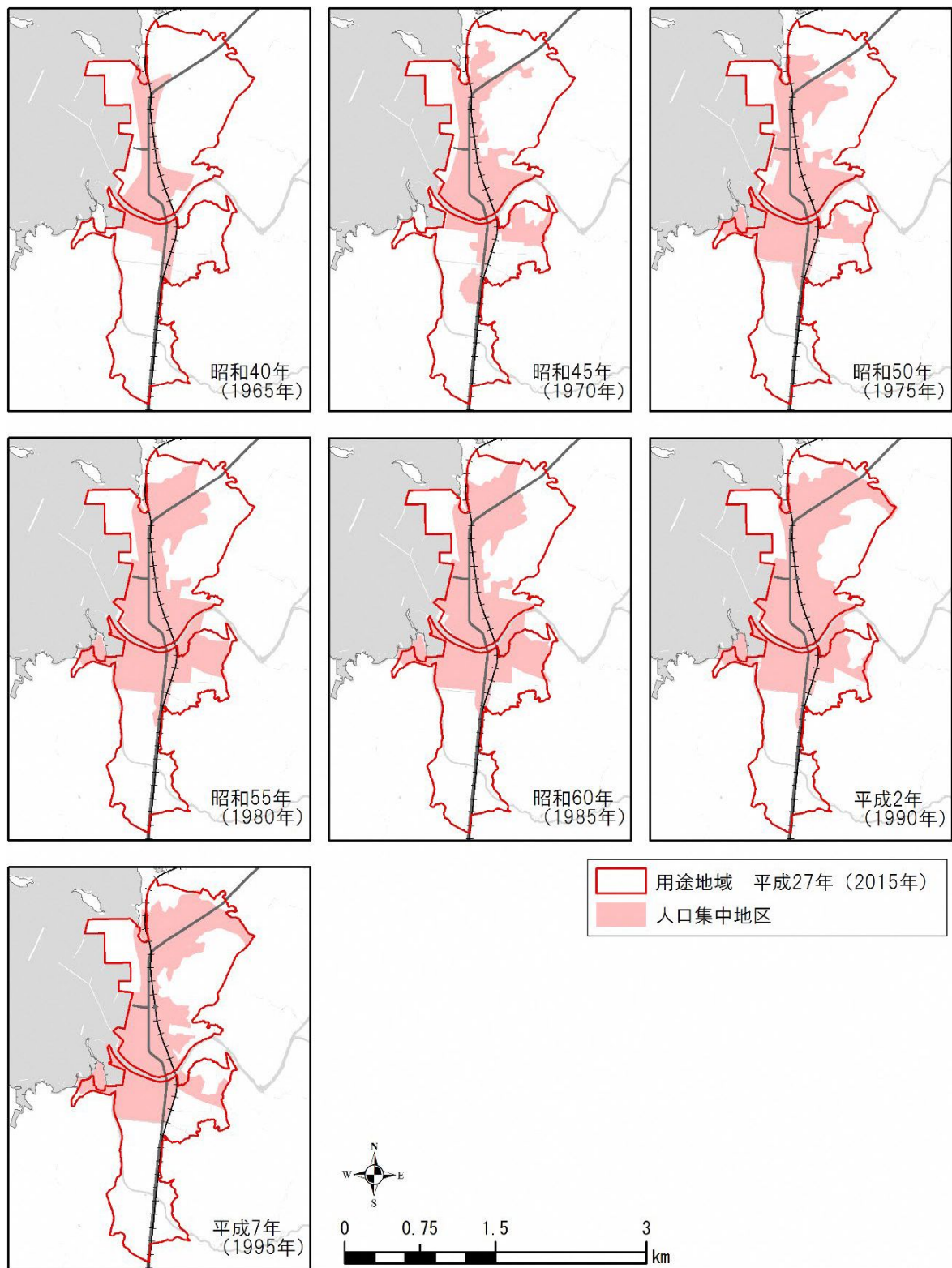


■ 人口集中地区の推移

資料：国土数値情報

※阿久根市の人口集中地区は、2000年に消滅している。

人口集中地区（DID 地区）：国勢調査基本単位区及び基本単位区内に複数の調査区がある場合は調査区（以下、基本単位区等）を基礎単位として、①原則として人口密度が 1 km²当たり 4,000 人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接して、②それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に 5,000 人以上を有する地域。



■人口集中地区の変遷図（1965年～1995年）

資料：国土数値情報，平成27年度都市計画基礎調査
 ※阿久根市の人口集中地区は，2000年に消滅している。

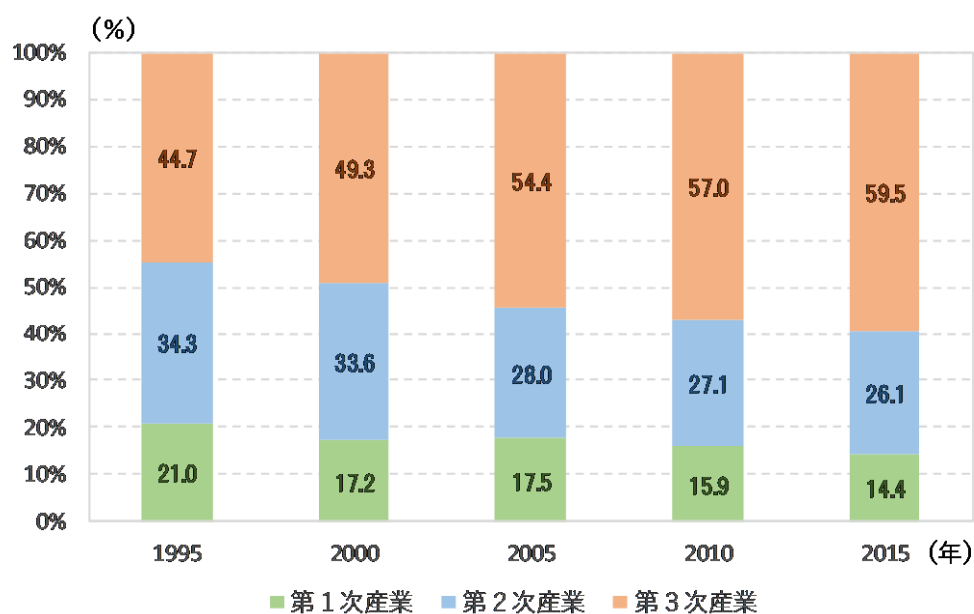
(3) 産業

ア 産業構造

(ア) 産業別の就業者数

産業別就業者数の状況を見ると、平成 27 (2015) 年の産業別就業者割合は、第 1 次産業が 14.4%、第 2 次産業が 26.1%、第 3 次産業が 59.5% となっています。

平成 7 (1995) 年からの就業者割合の推移を見ると、第 1 次産業、第 2 次産業は減少傾向、第 3 次産業は増加傾向にあります。



■ 産業別就業者数（割合）の推移

資料：国勢調査

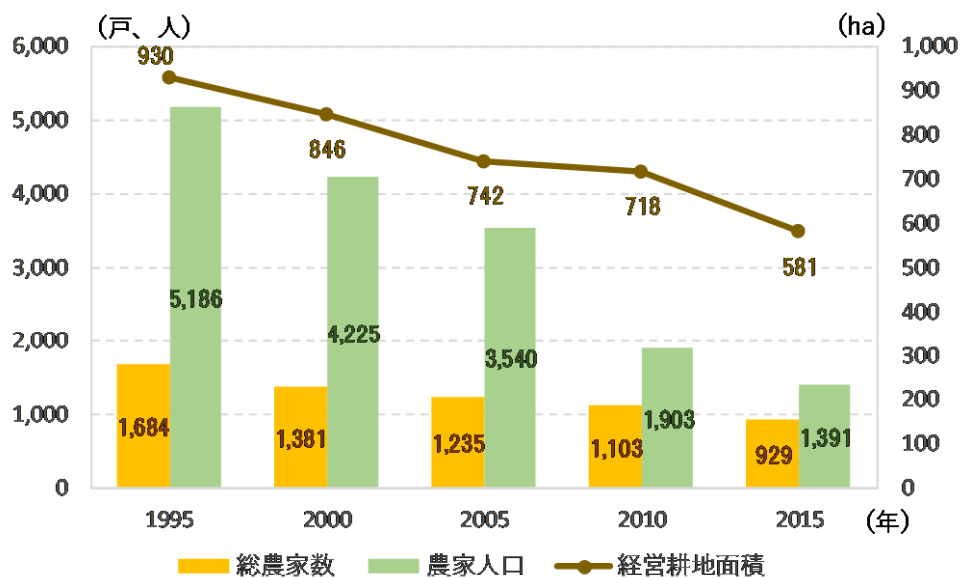
※産業大分類のうち「分類不能の産業」を除く

(イ) 農業水産業

総農家戸数，農家人口，経営耕地面積の推移を見ると，平成 7（1995）年以降，減少傾向が続いています。

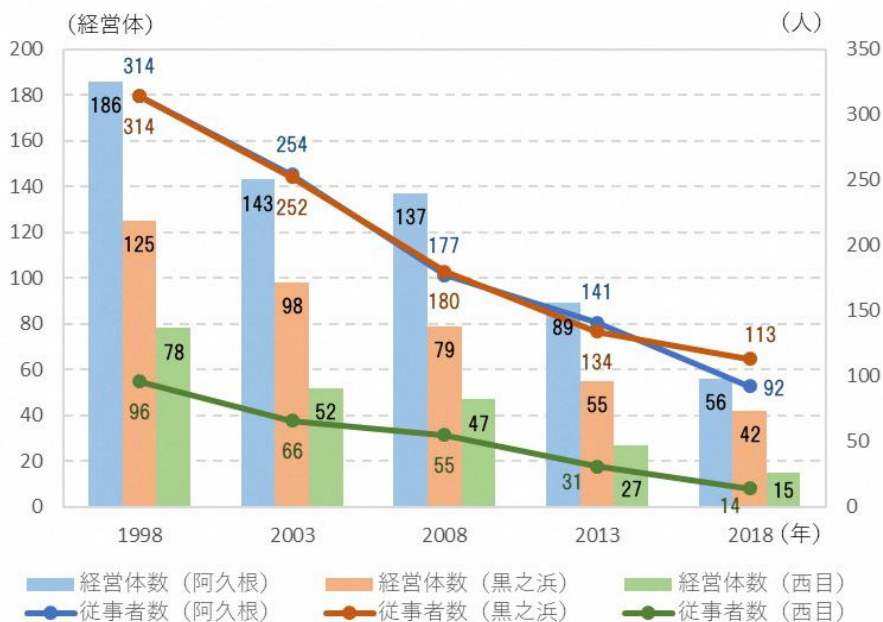
特に，農家人口の減少が著しく，平成 27（2015）年の農家人口は，平成 7（1995）年と比較して，4 分の 1 近くまで減少しています。

漁業経営体数と従事者数をみると，年々減少しており，平成 25（2013）年の従事者数は平成 10（1998）年と比較すると，北さつま漁協阿久根本所では 44.9%，黒之浜支所では 42.7%，西目支所では 32.3% となっており，西目支所での減少率が特に目立ちます。



■ 農家戸数，農家人口，経営耕地面積の推移

資料：統計あくね
 (2000年世界農林業センサス，
 1995年・2005年・2010年・2015年農林業センサス)



■ 漁業経営体数と従事者数の推移

資料：統計あくね (漁業センサス)

(ウ) 工業

平成 28(2016)年の出荷額は約 436 億円となっており、平成 25(2013)年から増加傾向にあります。工場数は平成 25(2013)年に減少に転じ、以後ほぼ横ばいとなっています。従業者数は、平成 26(2014)年まではほぼ横ばいの傾向でしたが、平成 28(2016)年に減少しています。



■ 工場，従業者数，出荷額等の推移

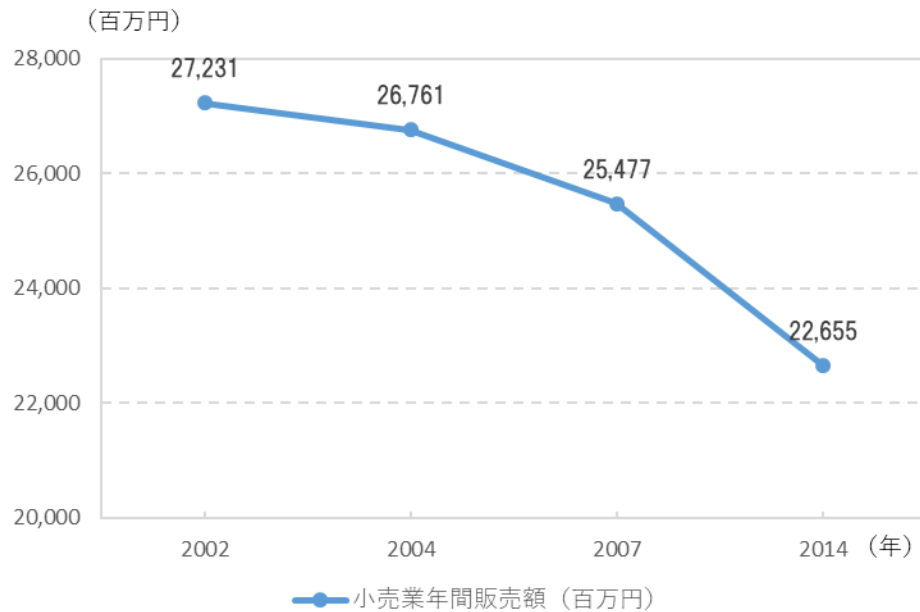
資料：統計あくね
(平成 24 年経済センサス-活動調査，
平成 25 年・平成 26 年・平成 29 年・平成 30 年工業統計調査，
平成 28 年経済センサス-活動調査)

(エ) 小売業

a 小売業年間販売額

平成 26 (2014) 年の阿久根市の小売業年間販売額は 22,655 百万円となっています。

過去 12 年間の推移を見てみると、平成 14 (2002) 年には 27,231 百万円でしたが、概して減少傾向を示しています。



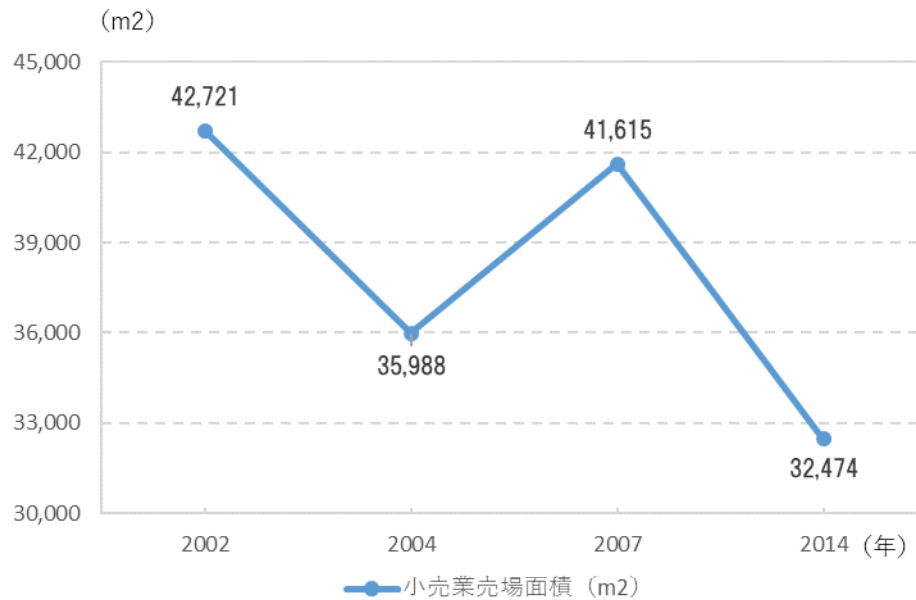
■ 小売業年間販売額の推移

資料：商業統計調査

b 小売業売り場面積

平成 26 (2014) 年の阿久根市の小売業売場面積は約 3 万 m² となっています。

過去 12 年間の推移をみると、平成 6 (2002) 年には約 4 万 m² でしたが、平成 26 (2014) 年に減少に転じています。



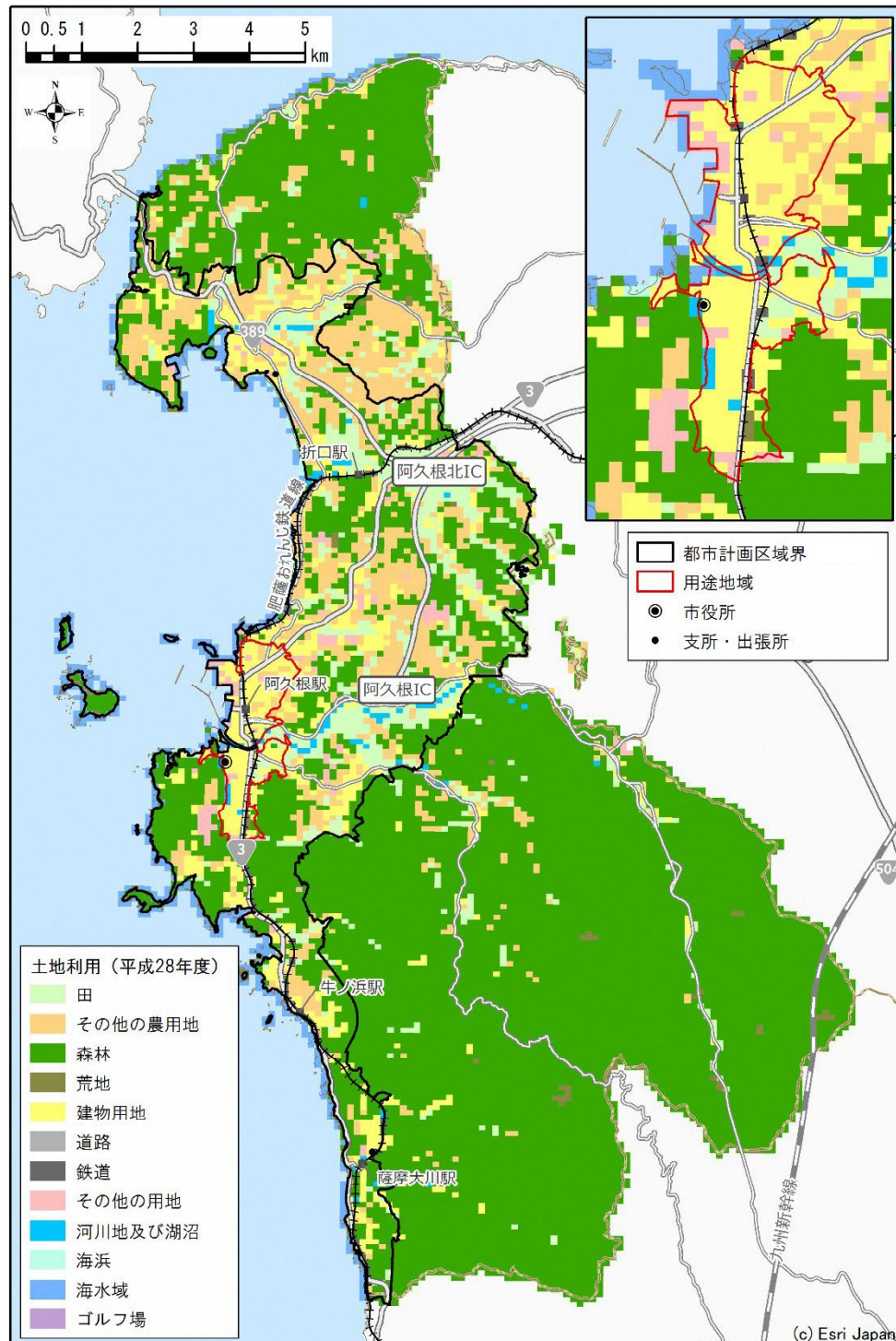
■ 小売業売場面積の推移

資料：商業統計調査

(4) 土地利用

ア 土地利用現況

土地利用現況を見ると、市の大半を森林が占めていることがわかります。また、市北部から中部にかけて、農地が広がっています。建物用地は、沿岸部に多く見られます。

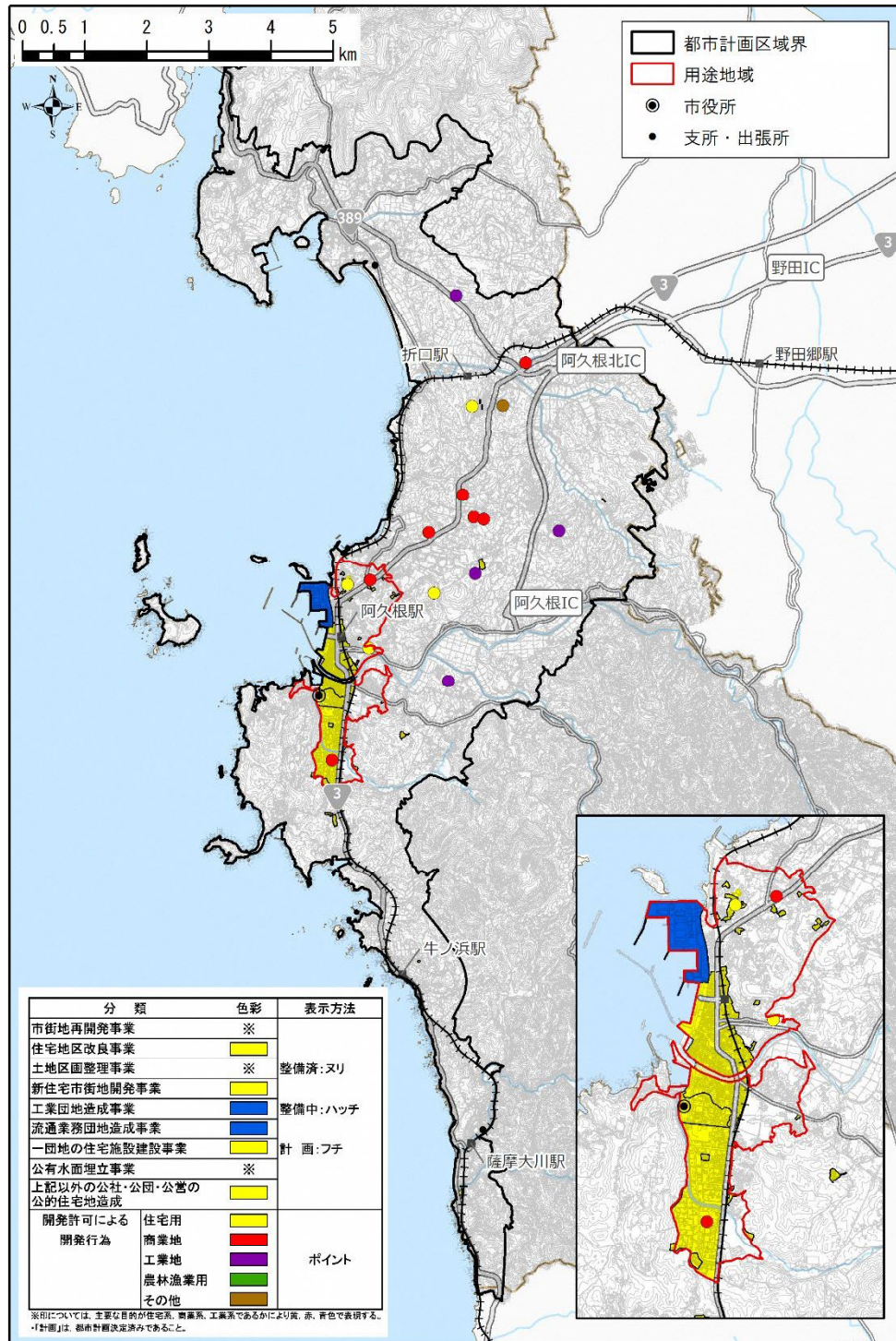


■ 土地利用現況図

資料：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ 100mメッシュ
(平成28年度)

イ 開発状況

開発許可の分布状況は、用途地域の西部で比較的多く開発が行われています。

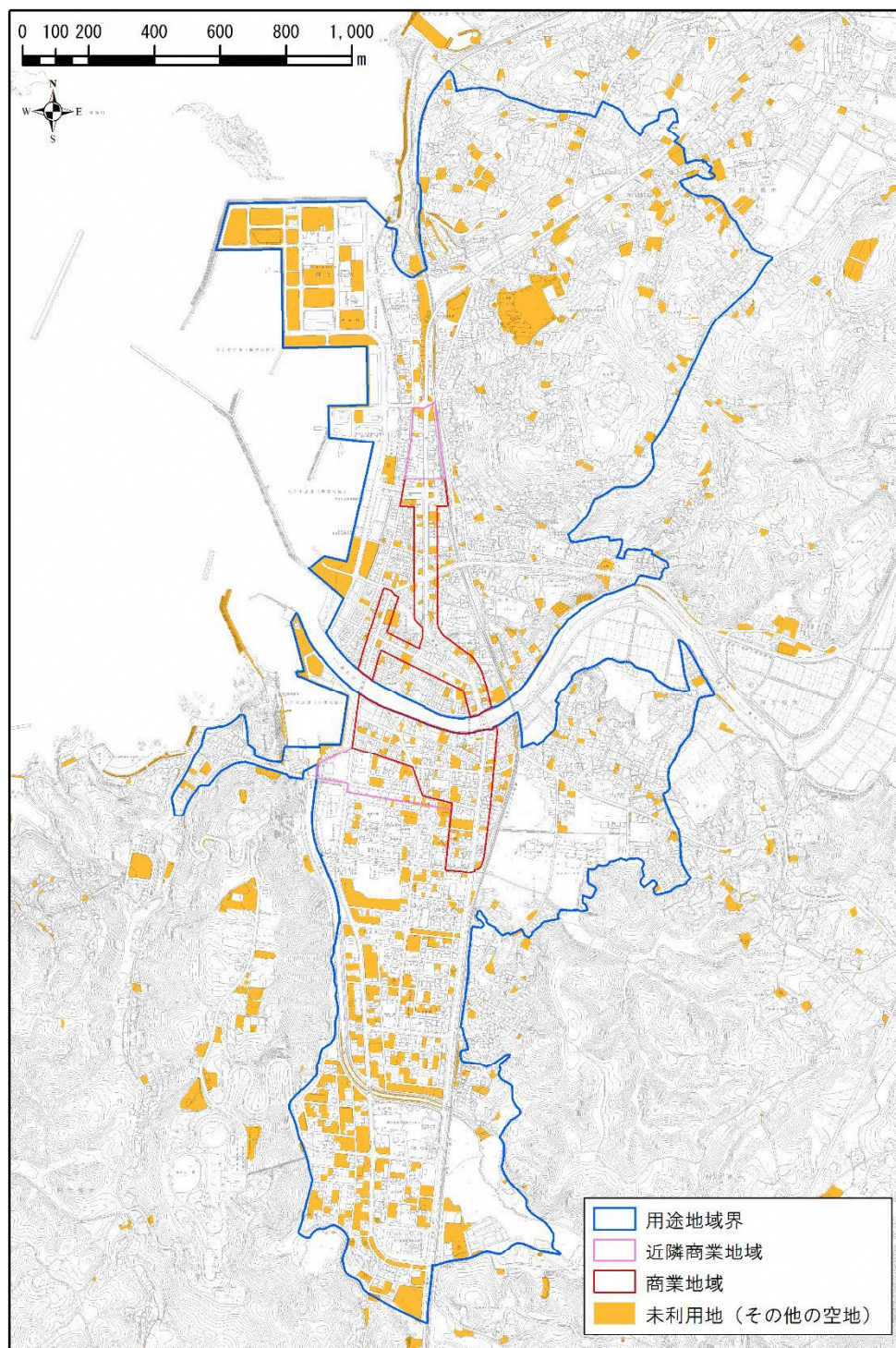


■ 開発許可の状況

資料：平成 27 年度都市計画基礎調査

ウ 未利用地

用途地域内の未利用地の状況をみると、市中心部には虫食い状に未利用地が分布しているほか、用途地域南部や沿岸部には、比較的大きな未利用地があります。



■ 商業系用途地域と地域内の未利用地の分布状況

資料：平成 27 年度都市計画基礎調査

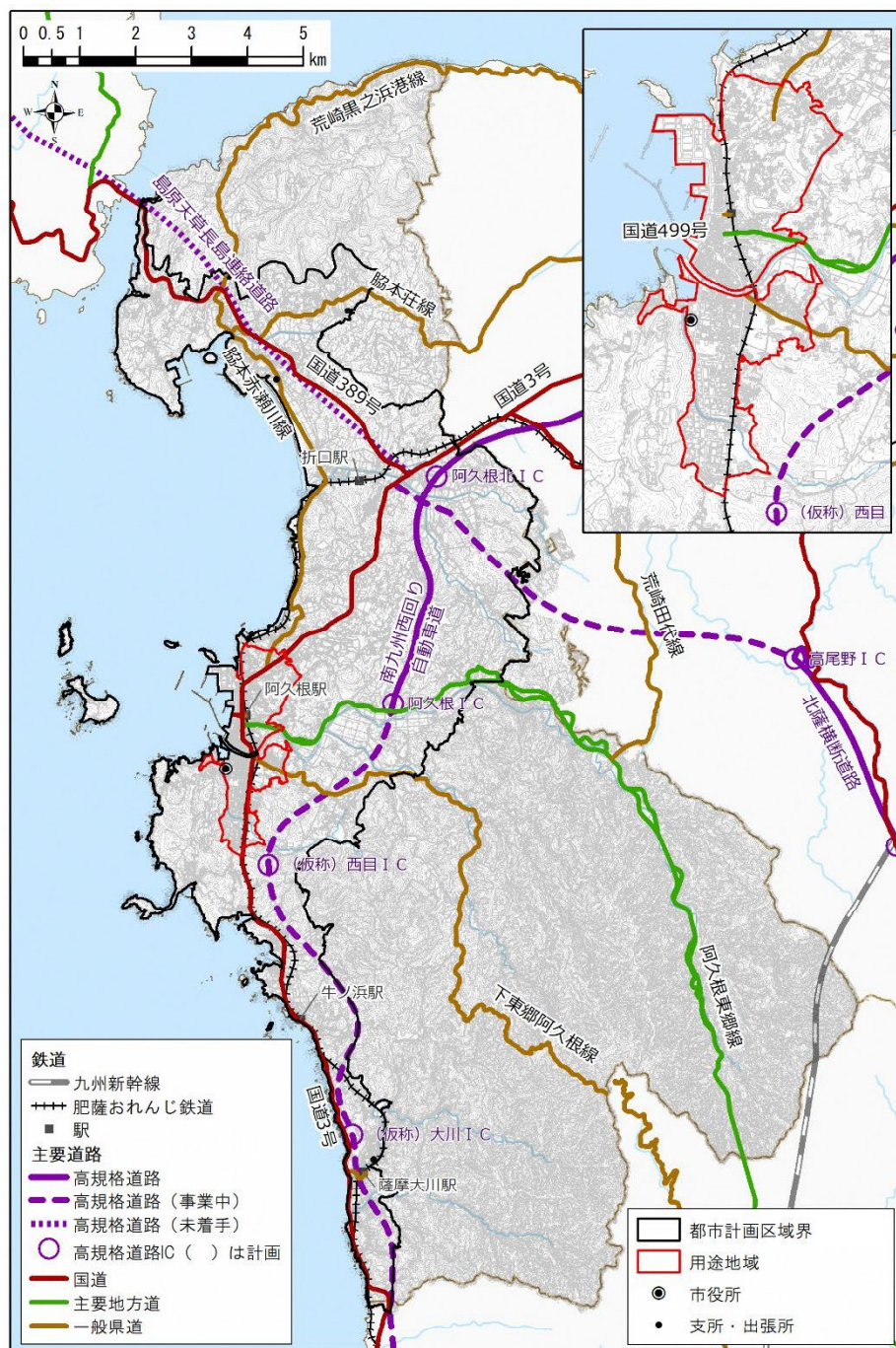
(5) 交通

ア 道路交通網

阿久根市では、南北方向に国道3号及び国道389号が、東西方向に主要地方道県道阿久根東郷線及び一般県道下東郷阿久根線が通っています。

高規格道路としては、南九州西回り自動車道が出水阿久根間で供用されており、阿久根薩摩川内間は事業化され、整備が進められています。

そのほか、北薩横断道路は、阿久根高尾野間が事業化されていますが、島原天草長島連絡道路は構想路線のままです。



■ 道路交通網図

資料：国土交通省，鹿児島県，

イ 公共交通

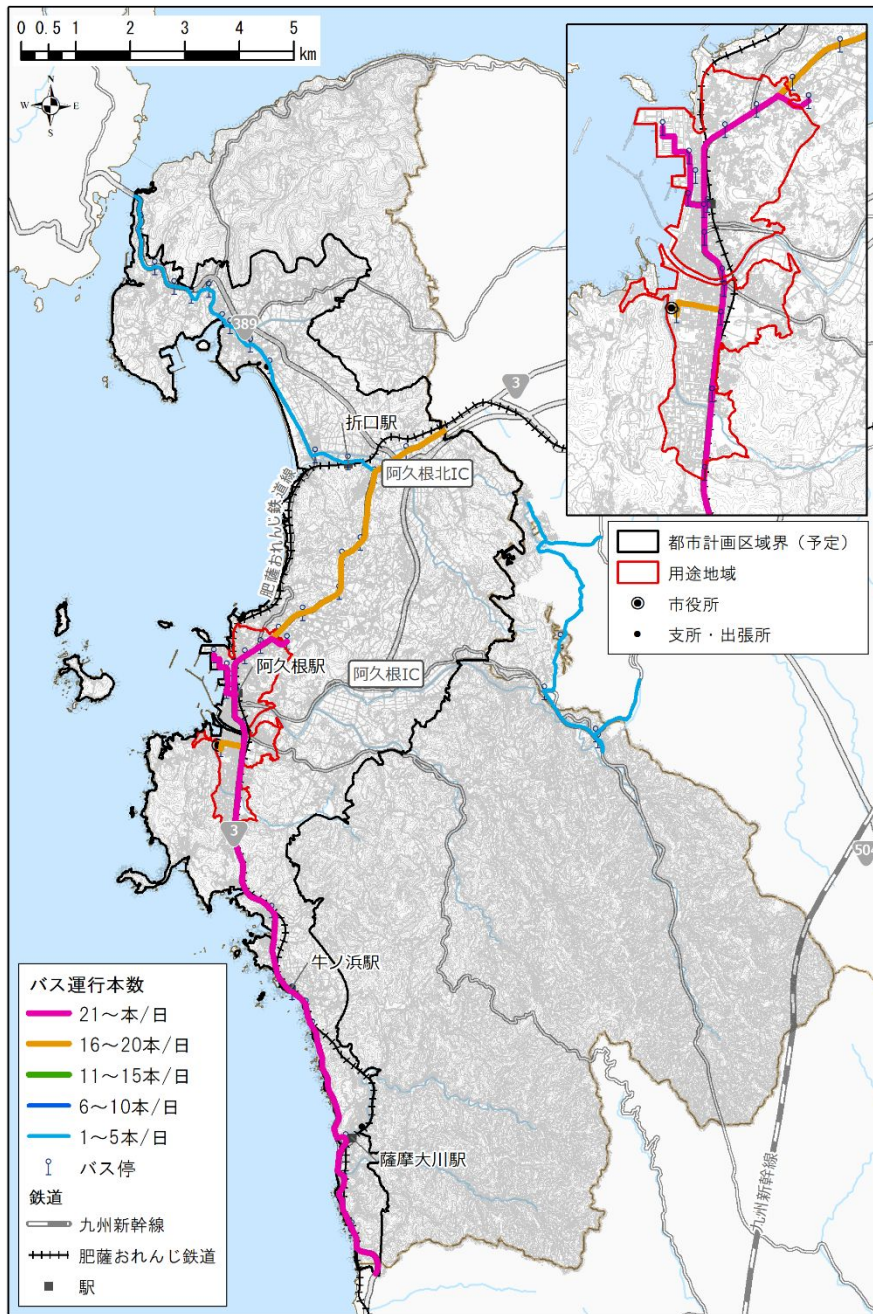
(ア) 公共交通網等

阿久根市内の鉄道及びバスの路線網は、右図のとおりです。

鉄道は、肥薩おれんじ鉄道が縦断しており、折口駅、阿久根駅、牛ノ浜駅、薩摩大川駅の4駅が設置されています。

バス路線については、市内に6路線が通っていますが、平成30年4月、10月に廃止された路線が3路線あり、縮小傾向にあります。

また、公共交通機関から離れた交通不便地域では、市民の移動手段を確保するため乗合タクシーを運行するとともに、平成30年度からは、高齢者等の外出を支援するための高齢者等福祉タクシーの運行も開始されています。



■公共交通網の現況

資料：平成 27 年度都市計画基礎調査，
南国バス（株）

■ バスの運行状況

路線名	駅名	運営会社	運行頻度 (平日) 本/日
路線バス	佐潟口～出水駅	南国交通(株)	8
	佐潟口～水俣車庫	〃	18
	佐潟口～平尾（出水郡長島町）	〃	7
	阿久根新港及び鶴翔高校～車庫前（薩摩川内市）	〃	32
	だんだん市場（出水郡長島町）～鶴翔高校	〃	1
	出水駅～平尾（鷹ノ巣経由，出水郡長島町）	〃	6
	出水駅～平尾（出水郡長島町）	〃	3
	だんだん市場（出水郡長島町）～出水駅	〃	1
	医療センター（出水市）～平尾（出水郡長島町）	〃	1
出水・天草ロマンシャトルバス	出水駅～蔵之元港（出水郡長島町）	〃	12
鹿児島空港連絡バス	市役所前～鹿児島空港（霧島市）	〃	20
コミュニティバス 野田循環便	（市内停留所）木佐木野，川平，田代，下田代	出水市	4

資料：令和2年南国交通（株）時刻表

■ 鉄道の運行状況

路線名	駅名	運営会社	運行頻度 (平日) 本/日	乗降客数 (日平均) 人/日
肥薩おれんじ鉄道	折口	肥薩おれんじ鉄道(株)	36	207
〃	阿久根	〃	36	638
〃	牛ノ浜	〃	36	40
〃	薩摩大川	〃	36	16

資料：令和2年肥薩おれんじ鉄道（株）時刻表，庁内資料

※運行頻度は令和2年3月時点

※乗降客数は平成30年4月～平成31年3月の実績値より算出

(6) 都市機能

ア 行政機能

(ア) 阿久根地区消防組合

阿久根地区消防組合は、阿久根市，長島町の1市1町で構成されており，阿久根市内に消防本部及び消防署が置かれています。

(イ) 阿久根警察署

阿久根警察署は，阿久根市，長島町の1市1町を管轄しており，阿久根市内に置かれています。

(ウ) 鹿児島県北薩地域振興局

北薩地域振興局は，阿久根市，薩摩川内市，出水市，長島町，さつま町の3市2町を所管しており，本庁は薩摩川内市にあります。

(エ) 北薩広域行政事務組合

本市は出水市，長島町と北薩広域行政事務組合を構成しており，ごみ処理やし尿処理，リサイクル処理等について連携しています。

ごみ処理は，本市内の環境センター及び出水市内のリサイクルセンターで行っています。現在，出水市内に新たな一般廃棄物処理施設が整備中です。

また，環境センター内に管理型の最終処分場も併設しています。

イ 医療機能

鹿児島県では，広域救急医療圏を設定しており，阿久根市，出水市，長島町は出水広域救急医療圏となっています。

第二次救急医療は，入院を必要とする重症の救急患者に対する医療を確保することが主目的であり，本市には出水郡医師会広域医療センターがあるほか，出水市の出水総合医療センターもその役割を担っています。

■ 出水広域救急医療圏における二次救急医療施設

機関名	所在地
出水郡医師会広域医療センター	阿久根市
出水総合医療センター	出水市

(7) 都市施設

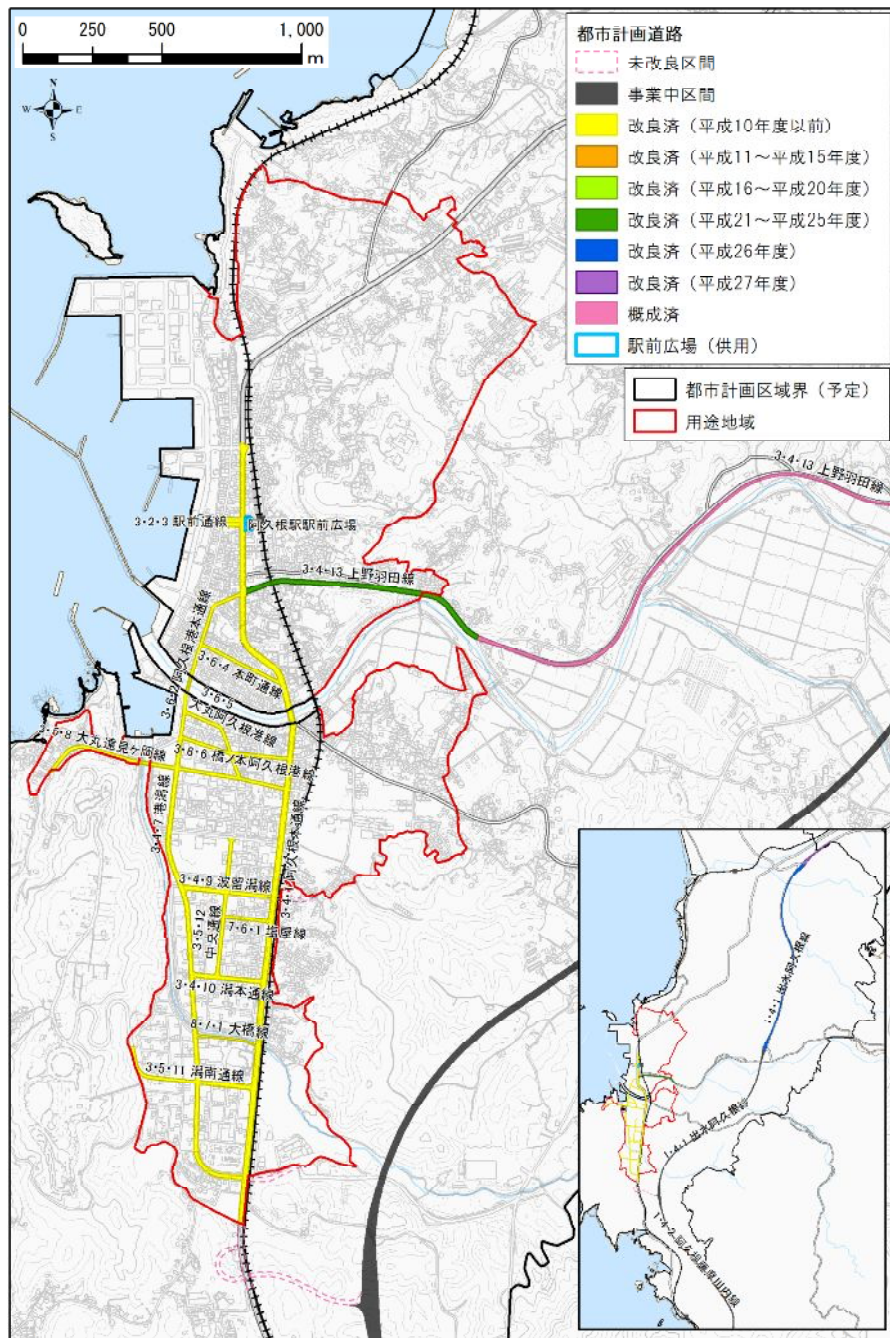
ア 都市計画道路

都市計画道路の整備状況は、下表のとおりです。

■ 都市計画道路の整備状況表

	都市計画道路		改良済	
	路線数	延長 (km)	延長 (km)	改良率 (%)
阿久根市	17	30.73	16.99	55

資料：鹿児島県の都市計画 2019



■ 都市計画道路の整備

資料：平成 27 年度都市計画基礎調査

イ 都市公園

都市公園の整備状況は、下表のとおりです。

本市の一人当たりの都市公園面積は 38.68 m²/人であり、都市公園面積の標準値※である 10 m²/人を満たしています。

※都市公園法施行令第1条の2に示される住民一人当たりの都市公園面積の標準値

■ 都市公園一覧

公園番号	種別	規模	一連番号	公園名称	種別	所在地	開設面積		供用の別(全部又は一部)	用途地域内	都市計画区域内	都市計画決定				
							開設日	開設面積								
2	2	1	晴海公園	街区	晴海町	S51.4.1	0.15	全部	○	○	○					
"	"	2	中央公園	"	本町	S32.1.23	0.63	"	○	○	○					
"	"	3	川岸公園	"	本町	S32.1.23	0.10	"	○	○	○					
"	"	4	大丸公園	"	大丸町	S32.1.23	0.09	"	○	○	○					
"	"	5	高松公園	"	高松町	S31.5.26	0.05	"	○	○	○					
"	"	6	鶴見公園	"	鶴見町	S58.10.20	0.32	"	○	○	○					
"	"	7	わかば公園	"	鶴見町	S58.10.20	0.05	"	○	○	○					
"	"	8	下木場公園	"	赤瀬川	S59.3.9	0.05	"	○	○	○					
"	"	9	遠見公園	"	西目	H14.4.1	0.68	"	○	○	○					
"	"	10	塩浜公園	"	塩浜町	H14.4.1	0.23	"	○	○	○					
"	"	11	塩鶴公園	"	塩鶴町	H14.4.1	0.27	"	○	○	○					
"	"	12	はまじんちょう公園	"	"	H14.4.1	0.37	"	○	○	○					
"	"	13	光礁公園	"	波留	H18.3.31	0.10	"		○						
"	"	14	鷲ヶ峯公園	"	"	"	0.04	"	○	○						
"	"	15	平和公園	"	"	"	0.04	"		○						
"	"	16	大辺志公園	"	赤瀬川	"	0.12	"		○						
"	"	17	折口ニュータウン公園1号	"	折口	"	0.10	"		○						
"	"	18	折口ニュータウン公園2号	"	"	"	0.06	"		○						
"	"	19	折口ニュータウン公園3号	"	"	"	0.04	"		○						
"	"	20	牛見顔公園	"	赤瀬川	"	0.16	"	○	○						
"	"	21	折口ニュータウン公園4号	"	折口	H19.3.15	0.03	"		○						
"	"	22	頼山陽公園	"	大川	"	0.07	"		○						
"	"	23	大曲公園	"	波留	H24.3.30	0.01	"	○	○						
"	"	24	瀬之浦農村公園	"	脇本	H6.4.1	0.52	"		○						
"	"	25	梶折鼻公園	"	脇本	S49.4.22	0.94	"		○						
3	3	1	戸柱公園	近隣	波留	S32.1.23	2.87	"	○	○						
5	5	1	大島公園	総合	波留	S32.1.23	30.02	"		○						
"	"	2	番所丘公園	"	西目	H2.7.20	21.94	"		○						
6	5	1	総合運動公園	運動	赤瀬川	S61.4.1	15.25	"		○						
7	2	1	元之島公園	風致	赤瀬川	S63.4.20	0.52	"		○						
"	"	2	小島公園	"	赤瀬川	S63.4.20	0.35	"		○						
緑		1	黒神岩緑地	緑地	波留	S60.12.25	0.14	"	○	○						
"		2	遠見ヶ岡緑地	"	波留	S62.6.16	0.17	"		○						
墓		1	潮見丘墓園	墓園	赤瀬川	S32.8.19	0.92	"	○	○	○					
合計							か	所	数	[か所]						
合計							面	積	[ha]							
地区別							一	人	当	た	り	公	園	面	積	[m ² /人]
								34.00			17	34				
								77.40			7.12	77.4				
								38.68			7.75	42.04				

令和2年4月1日現在

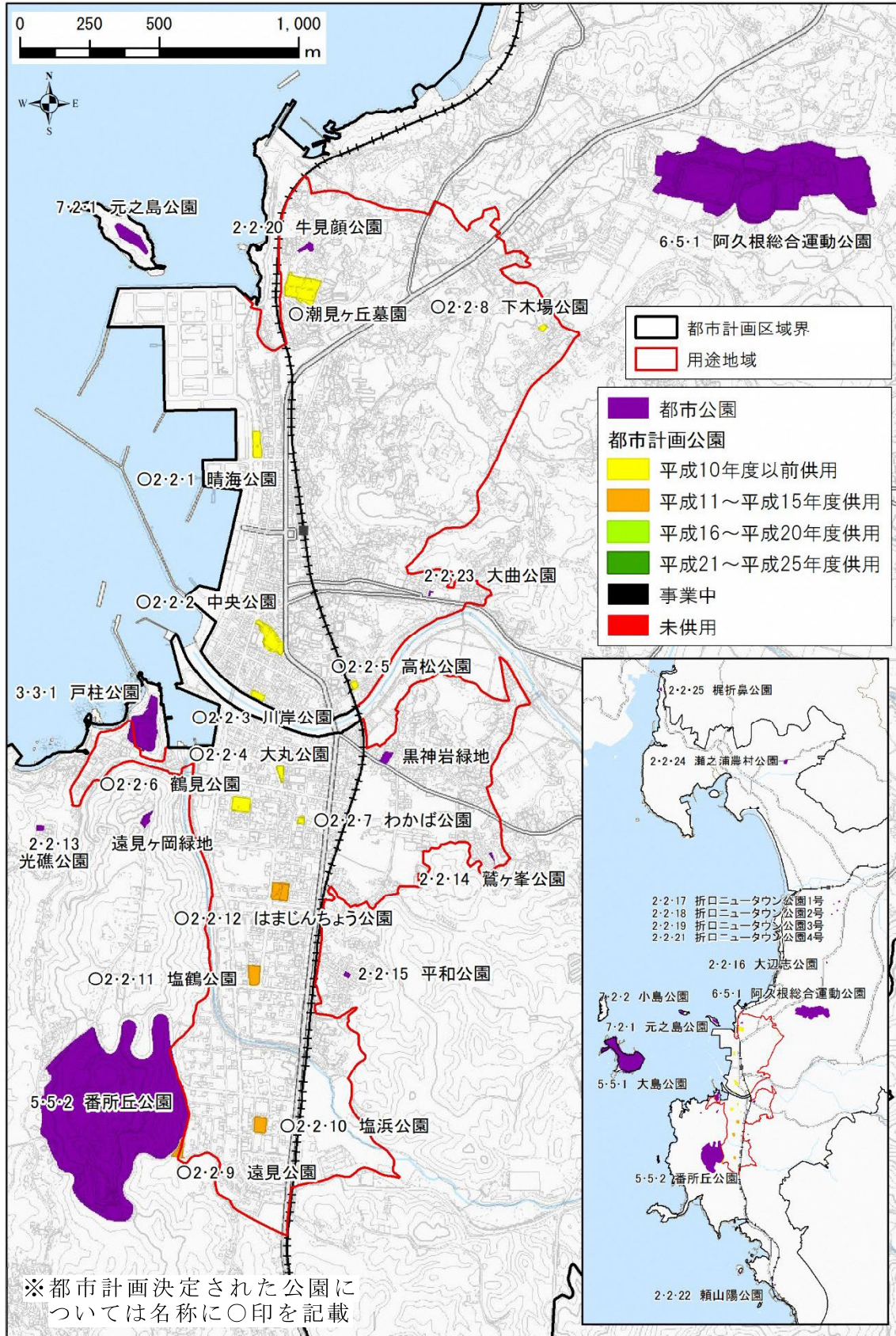
※都市計画区域面積 A=4,185ha

" 人口 18,409人

※用途地域面積 A=301ha

" 人口 6,885人

資料：統計あくね令和元年版，市提供資料

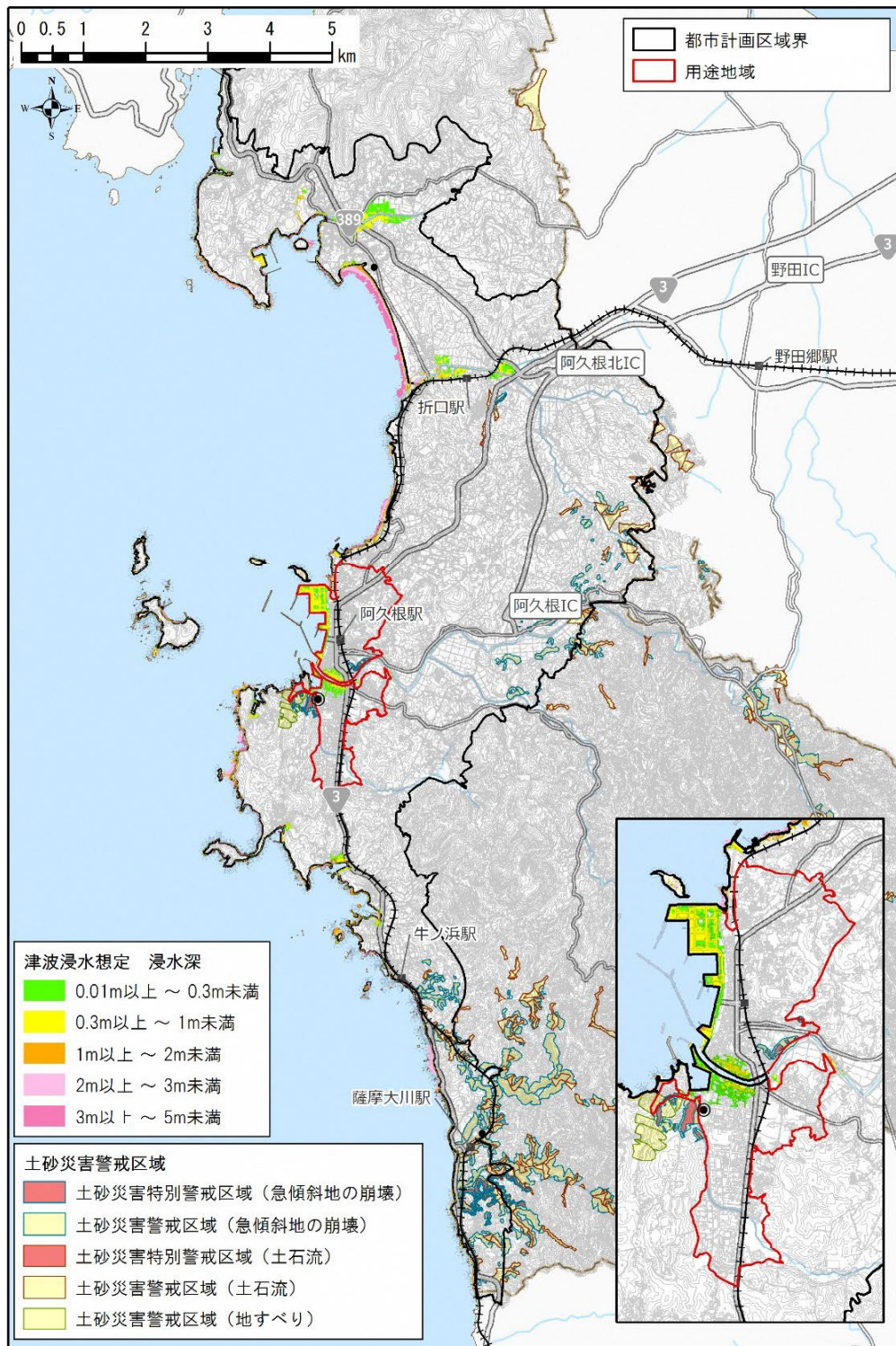


■都市公園位置図

資料：平成27年度都市計画基礎調査，市提供資料

(8) 災害

阿久根市の津波浸水想定と土砂災害警戒区域は，下図のとおりです。



■ 津波浸水想定及び土砂災害警戒区域図

資料：国土数値情報 津波浸水想定（平成 28 年度），
土砂災害警戒区域（平成 30 年度）

(9) 自然環境

九州でも比較的温暖な本市では、気候に応じた豊かな生態系を確認することができます。本市では、阿久根市環境基本条例に基づきながら自然環境の保全に取り組んでいます。

ア 植物

潟地区に九州本土最北限のハマジンチョウの自生地があり、県の文化財として指定を受けているほか、地勢に応じて特徴ある植物が生育しています。

イ 動物

県立自然公園に指定されている海岸沿いでは、産卵のために上陸するウミガメを確認することができます。また、阿久根大島に生息する野生のシカも、本市の特徴的な動物に挙げられます。

(10) 景観

本市の景観は、東シナ海に面した約 40km の海岸線と日本三大急潮である黒之瀬戸に代表されるように、海の景観資源が多くあります。

また、農業や漁業、伝統、文化などの人々の営みにより育まれた農山漁村の景観は、魅力ある本市の景観のひとつです。

ア 景観資源

阿久根大島，脇本海岸，黒之瀬戸，牛之浜景勝地，大川島海岸等。

2 市民意向の把握

都市計画マスタープランの策定（見直し）に当たり、幅広い市民の意見をできる限り反映するために、アンケート調査を実施しました。ここでは、アンケート調査結果を抜粋し掲載します。

(1) 調査の概要

ア 調査対象

- 調査地域：阿久根市全域
- 調査対象：18歳以上で阿久根市にお住まいの方2,000人

イ 実施方法

- 配布回収：郵送配布・郵送回収調査法
- 調査期間：令和元年9月5日～9月20日

ウ 回収結果

配布数2,000人に対し、713人（有効回収率：35.9%*）から回答をいただきました。

※宛先不明14人を除く

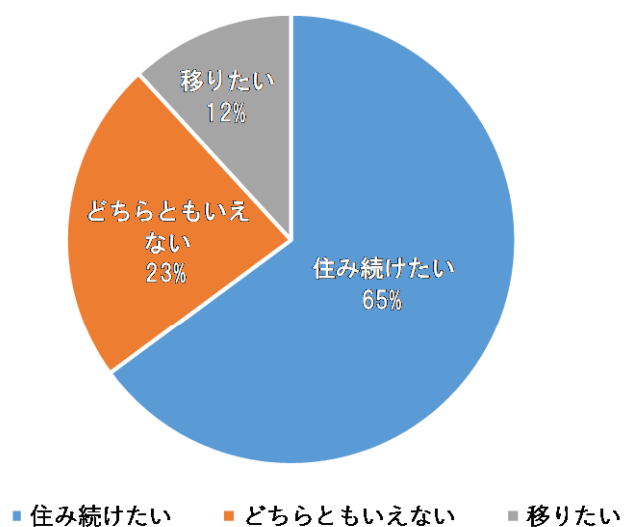
(2) 調査結果の概要

調査結果の概要を次ページ以降に示します。

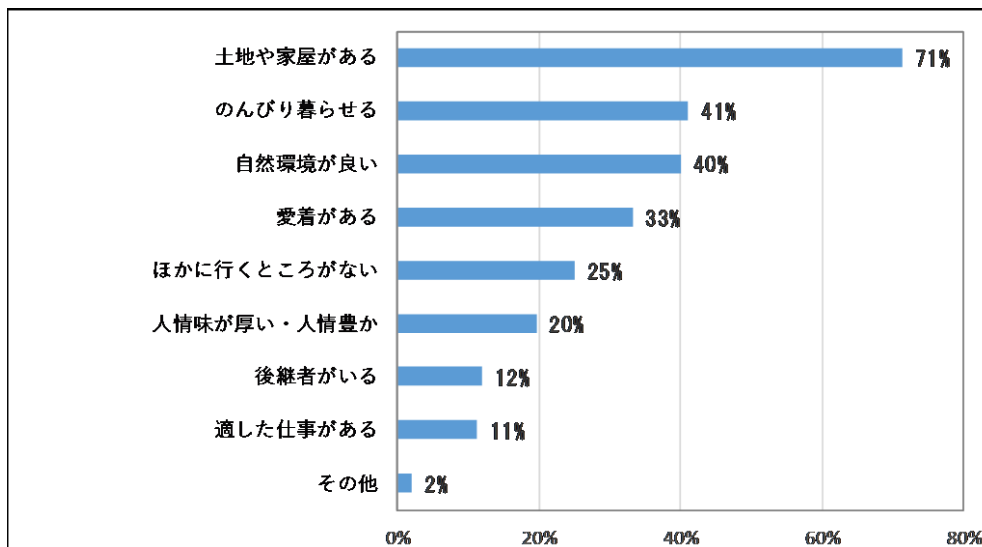
ア 今後の定住意向

- ・ 今後の定住意向について、住み続けたいと回答した人が 65%と高くなりました。
- ・ 住み続けたい理由としては、土地や家屋があるといった理由のほかに、のんびり暮らせる、自然環境が良いといった阿久根らしさに起因するものが多く挙げられました。
- ・ 移りたい理由としては、買い物や医療施設の受診、交通などの生活の不便さや、収入が少ないといった雇用面における不満が聞かれました。

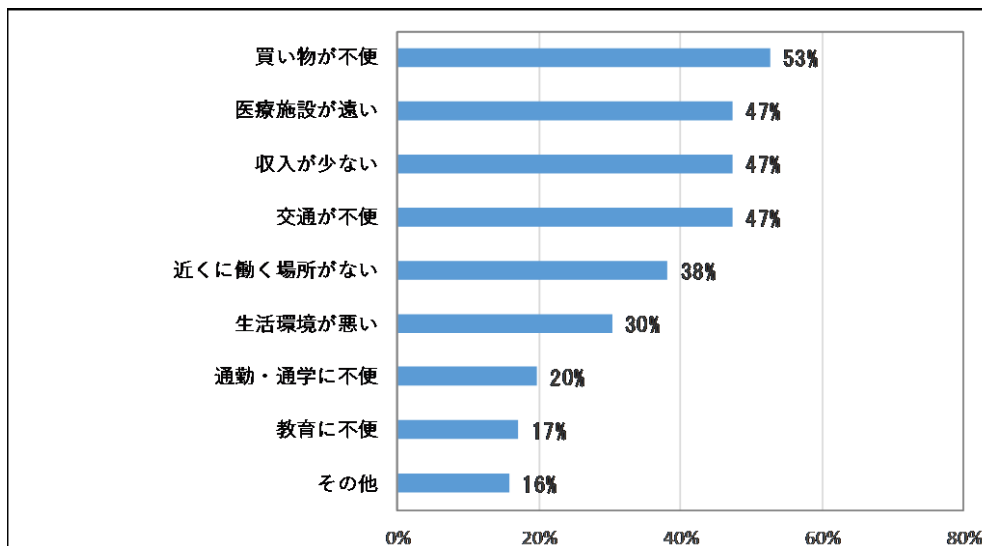
[定住意向]



[住み続けたい理由] (いくつでも)



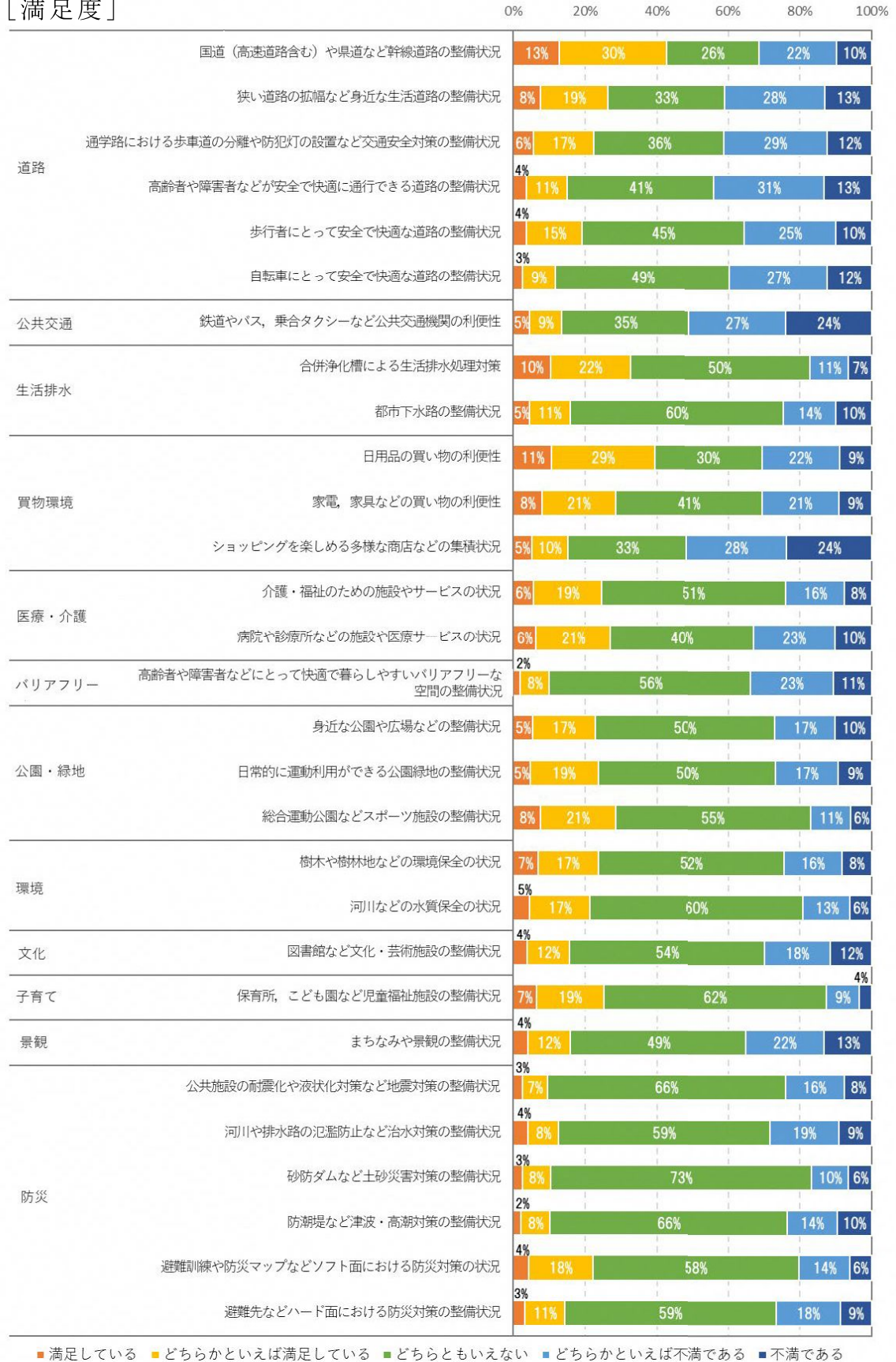
[移りたい理由] (いくつでも)



イ 現在の居住地区の満足度，重要度

- ・ 国道や県道などの幹線道路の整備状況について満足度が比較的高い一方、生活道路についての項目は満足度が低く、重要度が高くなっています。
- ・ 鉄道やバス，乗合タクシーなどの公共交通の利便性について，満足度が比較的低くなっています。
- ・ 防災に関する項目は，いずれも重要度が比較的高くなっています。

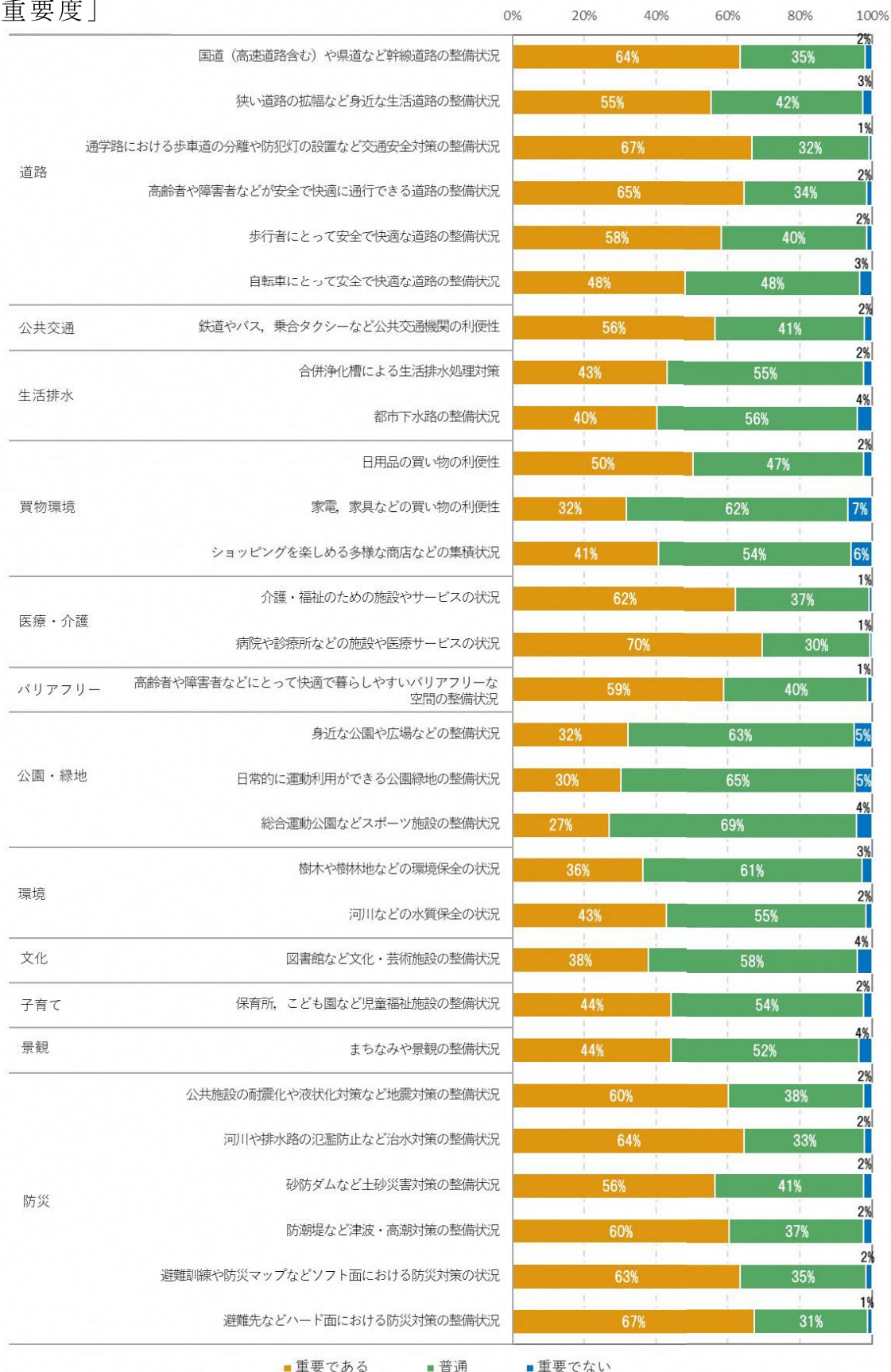
[満足度]



■満足している ■どちらかといえば満足している ■どちらともいえない ■どちらかといえば不満である ■不満である

※端数処理の関係で合計が100%とならない場合があります。

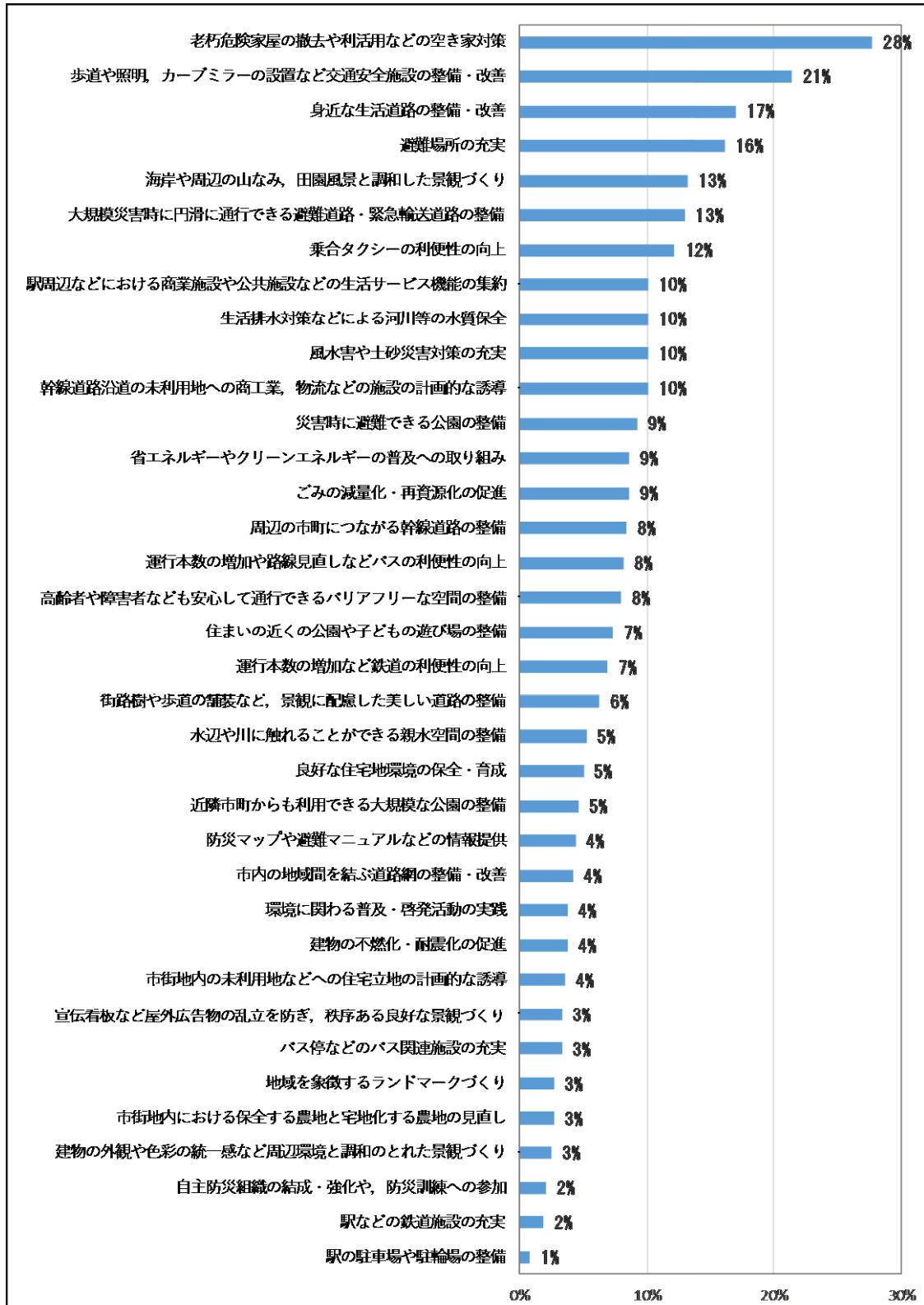
[重要度]



※端数処理の関係で合計が 100% とならない場合があります。

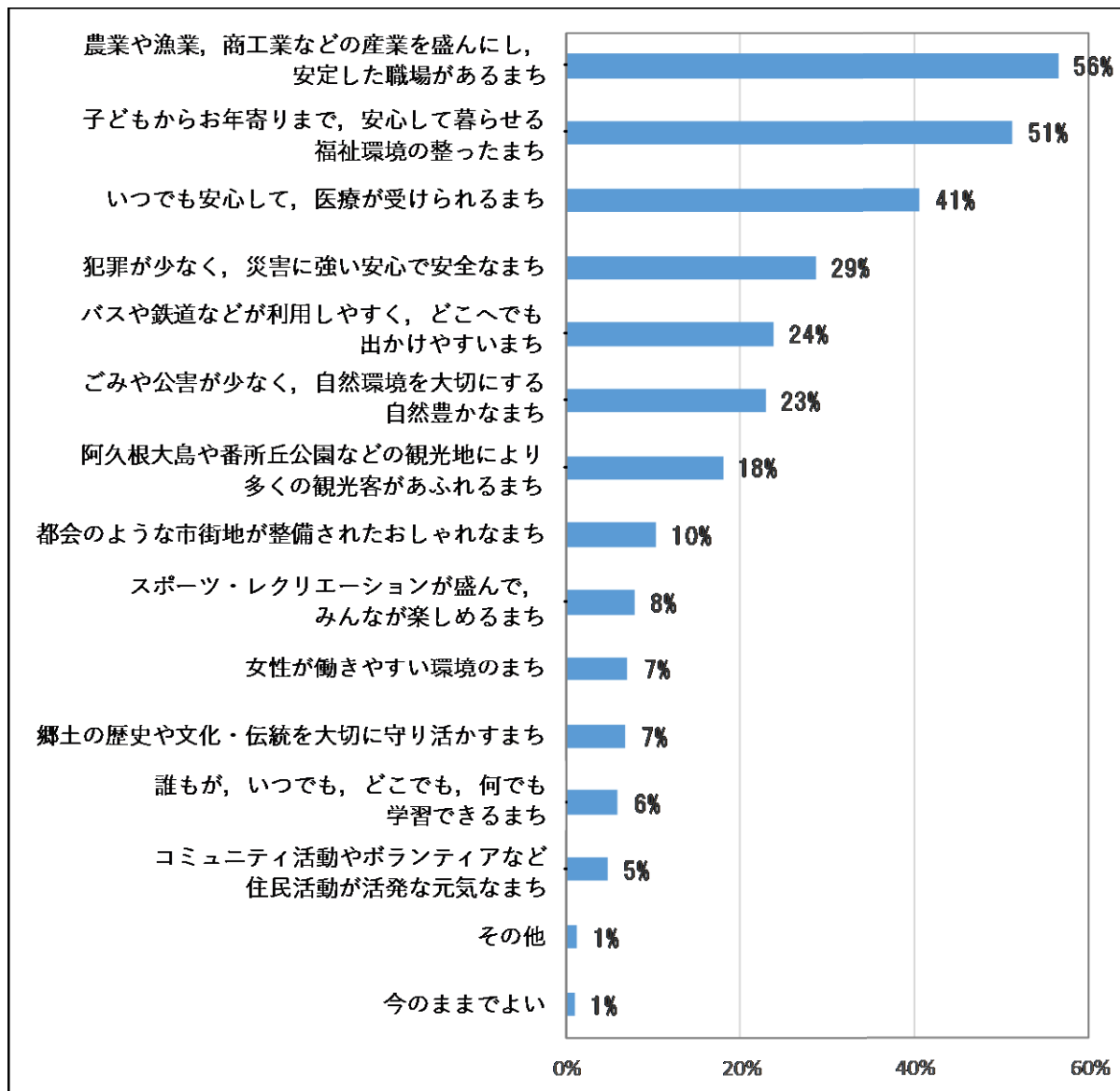
ウ 現在の居住地区について、特に望むもの（3つまで）

- ・ 空き家対策について市民の関心が高くなっています。
- ・ 身近な生活道路に対するニーズが高くなっています。
- ・ 防災に関する項目では、避難場所の充実等ハード整備への関心が高い一方で、自主防災組織の結成・強化といったソフト対策への希望は少ない結果となりました。



エ 将来の阿久根市に望むこと（阿久根市の将来像）（3つまで）

- ・ 雇用や福祉・医療に関する項目が高い結果となりました。



3 都市づくりの課題

以上を踏まえて、本市における都市づくりの課題を整理しました。

■ 都市機能や居住の誘導による市街地の活性化

全国的に人口減少、少子高齢化が進行し、地方財政の深刻化などが懸念されている中で、国全体として持続可能なまちづくりを目指した取組が行われています。

本市においても、人口減少や少子高齢化が進行しており、平成12(2000)年にはDID地区が消滅しています。また、土地利用の面では、用途地域外の国道沿いにおいて開発行為が多く行われているほか、用途地域内には虫食い状に未利用地が分布しているなど、中心市街地の低密度化が進んでいます。

中心市街地に都市機能を誘導し、市街地の低密度化を抑制するとともに、低未利用地を有効に活用するなど、中心市街地のにぎわい創出に向けた取組が必要です。

■ 空き家対策等による住環境の維持・向上

本市では、全国の地方都市と同様に、少子高齢化や人口減少、核家族化に伴い、空き家の数は増加傾向にあります。

また、市民アンケートにおいても、現在の居住地区のまちづくりについて特に望むものとして空き家対策が最上位に挙げられており、老朽危険家屋の撤去や既存空き家利活用などの対策が求められています。

倒壊の危険や衛生面、景観面等で周辺に悪影響を及ぼす管理不全な空き家に対し適切に対応し、暮らしやすい住環境の維持・向上を図ることが必要です。

■ 高規格交通ネットワーク整備効果を見据えた都市づくりの推進

現在整備が進められている南九州西回り自動車道や北薩横断道路等の高規格交通ネットワークが完成すると、本市と他の都市圏とのアクセス性が向上し、社会経済環境が大きく変化することが考えられます。

この高規格交通ネットワークの整備をまちづくりの好機と捉え、その効果を最大限に生かすことで、産業や観光振興による雇用の確保や交流人口の拡大、定住人口の確保が求められます。

都市づくりの側面では、都市基盤の整備や土地利用の再編と適切な機能立地への誘導など、高規格交通ネットワーク整備インパクトを見据えた都市づくりを推進することが必要です。

■誰もが移動しやすい公共交通や生活道路の確保

本市の公共交通は肥薩おれんじ鉄道と路線バスですが、いずれも利用者が少なく厳しい経営となっています。市民の移動手段を確保するために乗合タクシーや高齢者等福祉タクシーが運行されていますが、市内には交通空白地域や不便地域が多く見られます。

一方で、市民アンケートにおいては、阿久根市から移りたい理由として「交通が不便」という声が多く挙げられたほか、今後の都市づくりについて望むものとして身近な生活道路に関する項目が上位となるなど、日常生活における交通の利便性確保が求められています。

今後も高齢化が進むと予想される中で、高齢者や障がい者等の交通弱者も安全・快適に移動できるよう、公共交通サービスの維持・確保や歩行空間のバリアフリー化等を図ることが必要です。

■緑豊かで美しい環境や景観の保全・創出

本市には、レクリエーションの拠点となるような大規模な公園や、海、山、里から構成された美しい景観が多くあります。これらの環境や景観は、阿久根の大きな魅力のひとつとなっています。

また、市民アンケートから、「のんびり暮らせる」、「自然環境が良い」といった阿久根らしさが定住意向に大きく関係していることがわかります。

阿久根らしい緑や景観を保全・創出し有効に活用することで、魅力あるまちづくりに取り組み、交流人口の拡大や定住人口の確保につなげていく必要があります。

■市民の安心・安全の確保

近年、全国的に大規模地震や大型台風等による水害が多発しており、各地に甚大な被害をもたらしています。

東日本大震災以降、市民の危機意識も高まっており、市民アンケートでは、防災に関する項目への重要度が高くなっています。

様々な自然災害が起こりやすい地理的特性を有し、また、市域のほとんどの地域が川内原子力発電所からおおむね 30km 圏内に位置するため、平常時から総合的に防災対策を進めながら、誰もが安心して暮らせる災害に強いまちづくりを進めることが必要です。

■最適な公共施設の整備と維持管理

本市の公共施設の多くは老朽化が進行しています。今後も人口減少が続くことが予測される中、限られた財源で市民の快適な暮らしを維持・向上させていくために、計画的・効率的な整備や適切な維持管理に取り組む必要があります。